

## 水車が伝える村の文化と地域づくり グリーンピア大佐村「ふれあい水車」リニューアル

REPORT 4

西城町大佐にある「ふれあい水車」が、木製から鉄製の水車に生まれ変わりました。

平成4年に農耕文化の伝承施設として造られたこの



▲谷の水を受け、ゴットン、ゴットンと力強く回る水車

水車は、老朽化により数年前から動かなくなっていました。グリーンピア大佐村の皆さんが自治振興区活動促進補助金事業を活用して修復

しました。

水車小屋に

は、米などをつく(精米する)装置と、米・大豆・そばなどを粉にする石臼があり、石臼は約50年前まで地元で使用されていたものを引き継いでいます。

かつて西城は、水車の里と呼ばれるほど多くの水車が回っており、大佐地域にも18基(3軒に1基)の水車が、米つきや粉引きなどに共同利用されていました。

9月30日にはそのお披露目会が行われ、水車の周りに集まった大佐村の皆さんは「昔の生活が懐かしく思い出される」「水車の音に励まされるよう」「水車が復活してうれしい」などと笑顔で話し、カメラやビデオで撮影していました。

大佐村ではこの水車を、子どもたちの遠足や農業農村体験交流などの地域づくり事業にも活用していく予定です。

## 道後山高原から全国へたすき クロカンパークで高校クロカン駅伝

REPORT 5

第16回広島高等学校クロカン駅伝大会が9月23日、道後山高原クロカンパークで開催されました。

夏場の走りこみから高校駅伝の仕上げの大会として位置づけられるこの大会には、県内はもとより中国地区からの出場チームも増えており、毎年年末に京都で開催される全国高校駅伝でも、この大会の出場選手が活躍しています。

広島県高等学校体育連盟陸上競技駅伝部の立上良典部長は「道後山高原クロカンパークは、夏涼しくスポーツ合宿には理想的な環境。豊かな自然を満喫しながら

安心して大会やトレーニングに集中できる」と話していました。

なお、レースは男子が世羅高校、女子は興譲館高校(岡山県)が優勝を飾りました。



▲芝の上を駆け抜ける選手たち

## アウトドアの魅力を比婆山で満喫 ひろしま県民の森で「山フェスしょうばら」開催

REPORT 6



▲アウトドアファッションショー  
人が参加。岡山市・広島市からはバスツアーも運行されました。

庄原の山の魅力を発信するイベント「山フェスしょうばら2012」が9月30日、ひろしま県民の森で行われました。

当日は、台風の影響があったにもかかわらず、市内外から約250

人が参加。岡山市・広島市からはバスツアーも運行されました。

メインイベントとなるアウトドアファッションショーでは、登山クラブ「広島山ガールクラブ」(広島市)のメンバーなど15人がモデルとなり、「山ガール」「山ボーイ」向けの最新アウトドアファッションに身を包んで登場し会場を盛り上げました。

このほか、登山ガイドが同行する初心者向けの登山、アウトドア料理教室、山ヨガなども行われ、参加者は思い思いに比婆山連峰を楽しんでいました。

倉敷市から訪れた参加者は「山登りも気持ち良かったけど、地元の方の温かいもてなしがうれしかった」と喜んでいました。

## 「米」は日本の元気の素 総領で備北米-1グランプリ

REPORT 1

「米」を使ったメニューを競う「備北米-1グランプリ」が10月14日、総領町の田総の里スポーツ公園で開催されました。

このイベントは、日本人の主食「米」をさまざまな形で味わおうと企画されたもので、「料理(8店)」「スイーツ(5店)」「ごはんのおとも(5店)」の3部門で競いました。

1部門につき1枚の投票券を渡された参加者は、会場に軒を連ねた各ブースを回り、創意工夫されたメニューを味わいながら、それぞれ一押しの一品に投票。その結果、料理部門ではかぼちゃのライスコロッケ、スイーツ部門では米粉ワッフル、ごはんのおとも部門ではゴーヤの

佃煮がグランプリを獲得しました。

米ワッフルを作成したまんま堂の代表者は「一生懸命メニューを考えて出店した。グランプリが取れて本当にうれしい」と涙ぐんでいました。

そのほか会場では、総領饗心太鼓などのステージや世界一のもちつき、隣接するなかつくに公園ではウォーキングも行われ、訪れた参加者は楽しい一日を過ごしていました。



## 記録のさらなる継続と交通安全への誓いを新たに 高野地域で交通死亡事故ゼロ継続3000日達成記念式典

REPORT 2

高野地域での交通死亡事故ゼロ継続3000日の達成を記念する式典が9月11日、高野小学校体育館で行われ、町内の小中学生や市民など約400人が集まりました。

式典は、庄原地区交通安全協会高野分会などで行われる実行委員会が開催したもので、井上清憲実行委員長は「高野地域で範となる交通安全運動を続けてきた実績を誇りとし、今回の交通死亡事故ゼロ継続3000日達成を一つの通過点と捉え、さらなる交通死亡事故ゼロ継続を目標に、引き続き交通安全活動を推進したい」とあいさつしました。

また町内の小中学生が作った交通安全標語優秀作品

が披露され、町内で永く交通安全活動を継続している団体とともに感謝状が贈呈されました。

式典後のアトラクションでは広島県警音楽隊によるドリル演奏が披露され、迫力ある生演奏に会場は大いに盛り上がりました。



▲井上委員長から感謝状を受け取る中原浩高野小PTA会長(左)

▲広島県警音楽隊の華麗なドリル演奏

## 未来の父・母が子育て演習 乳児・幼児と口和中学生がふれあい体験

REPORT 3



▲子どもと触れ合う生徒たち

日、口和中学校で行われました。

この日、3年生17人と保育所入所前の0歳～3歳児10人がご対面。最初に生徒たちが自分の名前の由来

口和中学校の生徒と未就学児が交流する「ふれあい体験学習会」が10月4

や、今がんばっていることを発表した後、お母さんたちと一緒におもちゃ作りを行ったり、乳幼児と一緒に遊んだり抱いたりしてふれあいました。

途中、お母さんたちが校内を見学している間、生徒たちは子どもたちを預かり、お母さんの代役をしましたが、お母さんがいなくなった途端に子どもたちは泣き出し、生徒が抱っこしてあやしてもなかなか泣き止まず悪戦苦闘していました。

体験学習を終えた生徒は「もっとうまく赤ちゃんに接することができると思っていただけ、実際はとても難しかったです。お母さんの大変さがわかった」と話していました。